



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

令和5年7月25日(月), 9月29日(金)
高校生と製炭, 木炭埋設 編

7月25日, 秋田県立能代高等学校の2年生3人がインターンシップで研究所を訪れ, 簡易製炭器1台で炭焼きを体験しました。この日は薄曇ながら気温が高く, 熱中症が心配な一日でしたが, こまめに休憩をとりながら, また, 炭化を待つ間には研究所内の見学も行いました。

この日の原料は, 能代バイパス黒松友の会の春の剪定会で生じたクロマツの剪定枝葉です*。これだけでは木炭の収量が少ないかもしれないと, 同日に得られた能代南インターチェンジ付近の青年会議所のクロマツの伐採枝も合わせて炭にしました。煙で目がしょぼしょぼになり, 灰が体中にかかったり, 汗だくになったりと, 高校生が持つ研究職のイメージとはかなり違った作業だったようですが, 色々な視点で木材利用を考え, 試行錯誤している私たちの姿勢は印象に残ったようです。建築や木材に関心のある高校生に, 新たな取り組みの一端を知っていただく一日となりました。

9月29日には秋田県立金足農業高校造園緑地科の生徒7人, 先生2人に参加していただき, 秋田自動車道太平山パーキングエリアの花壇に木炭を埋設しました。雑草の発生や生育抑制効果を期待し, 能代高校生と製炭した木炭を含め72kg 使用しました。この花壇では同校生物資源科の生徒とNEXCO 東日本秋田管理事務所の皆さんが毎年花苗を植栽しています。秋田管理事務所の除草作業の軽減を図りながら土中に炭素貯蔵もする, 一石二鳥の試行です。

今年の猛暑で花の生育状況が芳しくなく, 計画通りの形にはなりませんでしたが, 上下線に各2つある花壇の片方に畦波シートで仕切って木炭を入れました。来春以降も雑草の発生, 生育状況の比較観察を続ける予定です。

古いようで新しい技術, 炭焼き。期待したような結果になるかどうか, この先が楽しみです。

*平成5年6月17日の活動レポート参照

文: 渡辺 千明



10時から研究所の概要や一日の予定と仕事の内容, なぜ炭焼きか?の説明がありました。作業終了後には, 予め出されていた質問に答えながら, 木材利用への理解を深めてもらう時間を設けました



気温も高いし, 製炭器周りは暑いし, 煙いしとこの日の作業は大変でした(上)。そんな中での頑張りで, 土のう袋25袋の剪定枝葉と伐採枝2m³から6袋の木炭ができました(下)。



片方の花壇の植栽部分を畦波シートで囲い, その外側にそれぞれ木炭8袋を入れて軽く土を被せました。上り線の花壇は枯れた花苗を抜いて残りは隣に移植(上), 下り線は枯れた花苗を取り除きました(下)。木炭の活用実験は, このあともまだまだ続きます。